

淡路高等学校では、平成18年度より淡路市社会福祉協議会の協力をいただき、浅野南県営住宅（旧 震災復興住宅）にお住いの高齢者を対象とした「淡高ミニデイサービス」（以降「ミニデイ」とする）を年間3回、企画・実施してきました。さらに、平成23年度には、富島地域にお住いの高齢者を対象とした「淡高サロン」を同日展開で始めました。平成27年度からは、「淡高ミニデイ」と「淡高サロン」を統合して、「淡高サロン」として実施しています。

「淡高ミニデイ・サロン」を軸とし、年間を通じて介護実習やコミュニケーション演習を取り入れながら「地域で共にいけること（共生）」、「人は人に支えられていること（人の温かさ）」などを、生徒は体験を通じて学んできました。淡路市の高齢化率は35・2%、うち淡路市富島（旧北淡町）の高齢化率は約38%で、約3人に1人が高齢者というこ



信を持つてサービスを提供しているという声が聞こえてきています。小さな取組の積み重ねが、自分や周りの人の生活を豊かにするということを今後も学ばせていきたいと考えています。

「淡高ミニデイ」「淡高サロン」を経験した生徒たちが、地域の福祉施設で自

兵庫県立淡路高等学校校長 栗井 光代

10年目の開催を迎えています。「淡高サロン」が地域の高齢者の生活の一部となり、心待ちにしてくださるまでになっています。

福祉を学ぶ高校生が、現状を把握し「高齢者の生活圏を広げよう」「楽しい時間を共有しよう」と企画・運営してきて、今年度で、

とになります。（平成25年3月）

また、人口が減少する一方、年々世帯数が増加傾向にあります。

これは、核家族世帯や高齢者のみの単独世帯の増加を示しています。

Pick up 人権ビデオ

ここから歩き始める

【企画のねらい】

日本における平均寿命の大幅な伸びや、少子化などを背景として、社会の高齢化が急速に進んでいます。それに伴い、認知症高齢者も大きな社会問題になっています。

平成24年に、65歳以上の認知症の人は約462万人でしたが、平成37年には、約700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人になると推計されています。

高齢者を家族や地域でどのように支えていくか、また、高齢者自身の意欲や能力をどのように生かしていくかを考

えることは、これからの私たちの大きな課題です。

この作品は、「認知症を共に生きる」をテーマに、高齢者問題を人の幸せと尊厳を守るといふ人権の視点から捉えます。認知症の親を持つ主人公とその家族の中で繰り広げられる介護をめぐる葛藤やきずなの紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りを持つて生きていく上で大切なことについて、家族や地域の視点を通して考えるきっかけとなるドラマ教材です。家族のそれぞれが、安心して暮らすためにできることについて見つめ直します。

【企画・製作】兵庫県・兵庫県人権啓発協会・東映（株）事務局コメント
みなさん一緒に人権問題について考えてみませんか。



■ DVD 本編 34分 2015年度作品

【問い合わせ先】

淡路市市民生活部人権推進課

TEL：0799-64-2521

FAX：0799-62-0551

●へんしゅつつかい○

最近、作家の高橋源一郎さんの講演を聴く機会にめぐまれました。高橋さんは、多動癇で、立ち止まってお話が出来ず、四六時中、舞台を動いていないとお喋りが出来ない方でした。自らを、マグロと一緒に言っていました。

（縄文人）

第42号のクイズの当選者は次の20名です。図書カードを送ります。（敬称略）
谷梨花（塩屋久保寛子（塩屋川原京美（生穂）山口美香（大谷）池田照子（志筑）空笑子（木曾下）清川裕香（佐野）植田敬子（志筑）山市昌子（大磯）高瀬篤子（釜口）藤田健登（久留麻）鳥井まゆみ（飯屋）藤岡高藏（岩屋）西濱美津子（岩屋）繁田喜代子（生田大坪）浜田美夜（育波）竹村和代（浅野南）北田薫（尾崎）菅谷泰枝（入野）志智あつ子（郡家）※正解は「こころゆたか」。応募総数は99通でした。当選おめでとうございます。